

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月17日現在

機関番号：27104

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21390571

研究課題名（和文）

経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究

研究課題名（英文）

A Study on the Validity of an 'Experience-Based Practice Teaching' Training Program

研究代表者

安酸 史子（YASUKATA FUMIKO）

福岡県立大学・看護学部・教授

研究者番号：10254559

研究成果の概要（和文）：

経験型実習教育の研修プログラムを教員、実習指導者、学生を対象に実施した。研修毎にアンケート調査を実施し、研究者間で検討を繰り返し研修プログラムのバージョンアップを図った。学生は実習に臨む直前、強い不安を抱いていることが明らかになった為、実習前の演習にプロジェクト学習を取り入れた結果、不安の程度の軽減を図ることができた。また教材 DVD を制作し、活用した。いずれの研修も満足度が高く、この研修プログラムが有効であることが示唆された。さらに経験型実習教育を受けた学部生及び卒業生にグループインタビューを実施し、経験型実習の効果が確認できた。今回の取り組みや成果は、学会発表および経験型実習教育ホームページで公表した。

研究成果の概要（英文）：

The training program of 'Experience-based practice teaching' was carried out for the assistants, the clinical-training nurses, and nurse students. Every enforcement of a training program, the questionnaire was carried out to the candidate.

Action research methodology was used in order to upgrade the training program.

The results of the student questionnaire says that the student bears strong anxiety to training and that the anxiety level has reduced through the project learning which was carried out as an introductory lesson of 'Experience-based practice. In addition, the 3 type DVDs were produced and utilized as a teaching materials. The degree of satisfaction to a training program was high, and the validity of this training program was suggested. Moreover, the group interview was carried out about what kind of learning was affected for the student (a junior, a senior student, and a graduate) who received 'experience-based practice teaching'. This results were released by the society announcement and the homepage.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2012年度	2,100,000	630,000	2,730,000
総計	9,800,000	2,940,000	12,740,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護実習・ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

臨地実習の教育方法として、研究代表者は、「経験型実習教育」を提唱している。平成16年度・17年度には基盤研究(B)の助成を受け、経験型実習教育のシステム化について研究を行ない、さらに平成19年度・20年度には基盤研究(C)の助成を受け、経験型実習教育のプログラムの開発を行なってきた。成果として、教員用のeラーニング教材ビデオ4巻を作成した。また実際にあった実習中の事例から領域別の典型事例について臨床指導者と検討を行なってきた。さらに経験型実習教育の充実を大学の中期計画・目標に掲げ、平成19年度から全実習領域が一同に会して経験型実習教育の合同研修会を開催するなどして、経験型実習教育のシステム化に向けた取り組みを進めた。

以上のような取り組みが定着しつつも、果たして学生自身に「経験から学ぶ力」が身に付いているのか、卒業生が新人看護師としての経験の中で「経験から学ぶ力」を発揮できているのかといった経験型実習教育の効果に関して明らかになっていなかった。

2. 研究の目的

学生および卒業生に「経験から学ぶ力」がどのように身に付き、それが将来にわたる看護師としての成長にどのように影響しているのかを学生時代から一人前と言われる年代まで縦断的に追跡調査をすることで明らかにし、経験型実習教育の今後の展望と課題について考察する。

3. 研究の方法

1) 経験型実習教育の研修プログラムをより効率的・効果的な内容と方法にバージョンアップする為の多面的な取り組みを継続して実施する。

◆ 対象：臨床実習指導者および教員

経験型実習教育の研修を繰り返し展開する。その研修効果について、アンケート調査と事例検討の結果をもとに質的研究(内容分析)により明らかにする。

2) 経験型実習教育を受けた学生の「経験から学ぶ力」とは何かについて、実習前後および卒業生を対象に調査する。

◆ 対象：学部生および卒業生

① <領域別実習直前の3年生>

経験型実習教育の導入として「看護実践論(プロジェクト学習)」を展開する。講義・演習(グループワーク・ロールプレイ)で、経験型実習における学生の学び方、問題解決思考のシミュレーションを実施する。講義・演習による効果・評価として、アンケート調査を実施し、量的・質的研究(記述統計・内容分析)により明らかにする。

② <領域別実習終了後の3・4年生、および卒業生>

領域別実習および看護師としての臨床経験から何を感じ、何を学んだかについて学年別にフォーカスグループインタビューを実施し、質的研究(内容分析)により明らかにする。

3) 実習現場で遭遇し得る事例をもとに作成したDVD教材を授業で活用する。活用したことによる学生の学習効果について検討を行う。

<対象：2年生>

DVD教材の動画を視聴し患者の全体像をシミュレーションする。学生は捉えた患者の全体像をワークシートに記載する。記載内容をもとに質的研究(内容分析)を行ない、学習効果について検討する。

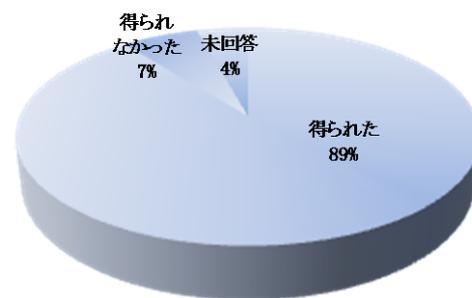
4. 研究成果

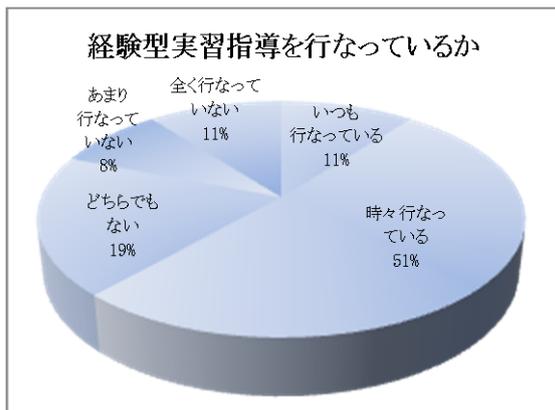
1) 臨床実習指導者および教員に向けた経験型実習教育の研修会について

研修会は、大学や実習施設、看護協会等対象者を変え複数回実施した。

いずれの研修会も参加者の満足度が高く、「実習指導のヒントが得られた」と大多数の参加者が回答していた。また「経験型実習教育を実際に行なっているか? 関心が高まったか?」の問いに半数以上の人々が「経験型実習教育を行なっている」「関心が高まった」と高評価であった。さらに「客観的に自分を振り返る機会になった」「学生の思いや考えが分かった」等の意見が出されていた。中には、「新人看護師教育にも活用したい」との意見も出され、経験型実習教育は、現役看護学生に留まらず、新人看護師教育にも活用できることが示唆された。

実習指導のヒントは得られたか

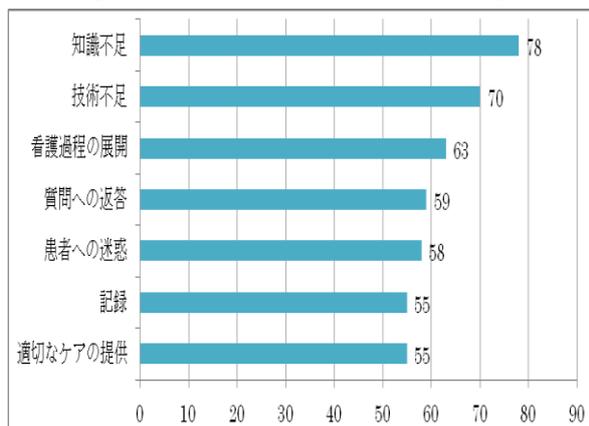




2) 経験型実習教育を受けた学生の「経験から学ぶ力」とは何かについて

① 領域別実習前の3年生に向けた「看護実践論(プロジェクト学習)」の取り組みについて

領域別実習を目前にして、27%が「とても不安」、61%が「少し不安」と答えており、大半の学生が不安を抱いていることが明らかになった。具体的な不安として「知識不足」「技術不足」「看護過程の展開」「(指導者の)質問への返答」「患者への迷惑」「記録」「適切なケアの提供」が挙げられた。この不安を解消する目的で、看護実践論では、プロジェクト学習を展開し、ポートフォリオを作成した。その結果、ポートフォリオの効果は「役に立った」が89%であった。看護実践論の展開により、領域別実習に対する漠然とした不安が明らかになり、自身による「問題解決思考力」を獲得できたことが示唆された。



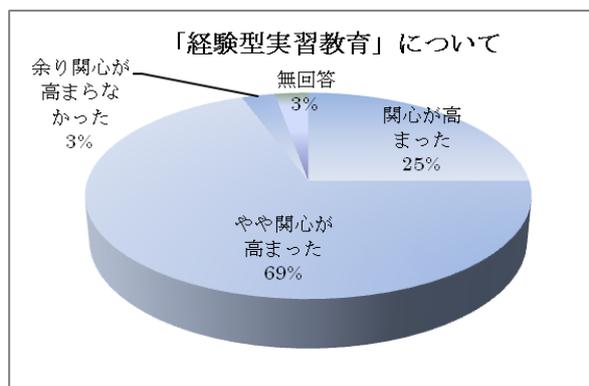
領域別実習前の具体的な不安

② 領域別実習終了後のフォーカスグループインタビューについて

<3年生>

フォーカスグループインタビューで得られたデータをもとに内容分析を行ない、【臨地実習から得た実習を乗り越えるための実

践知】【ケアリング関係を基盤として自らの看護ができた喜び】【グループメンバーの存在が臨地実習を乗り越える力になる】の3つのカテゴリが抽出された。経験型実習教育プログラムで、実習前の講義・演習、実習、そして実習後の発表の機会、教員との繰り返される面談等により、学生にリフレクションを促す関わりが教育的意味につながると考える。またこのような関わりは、“知の獲得”に結びつくと示唆する。



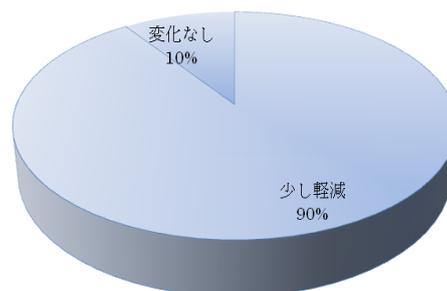
<4年生>

フォーカスグループインタビューで得られたデータをもとに内容分析を行ない、【経験することで得られる効用の実感】【他者との関わり合いの中で受け止められ認められる関係】【自己形成への歩み】の3つのカテゴリが抽出された。経験型実習を通して学生個々が様々な経験をし、気づき、学ぶプロセスを経て、自身が変化・成長し続けている現象が明らかになった。

<卒業生>

フォーカスグループインタビューで得られたデータをもとに内容分析を行ない、【話し合うことの重要性】【患者理解】【信頼することの意味】【多角的視点】【自分で解決するための方策】【経験を学びに変えていく考える力】の6つのカテゴリが抽出された。経験型実習教育を受けた看護師は、『反省的経験』を学びに変える力を育み、自分自身で解決していくための方策を獲得していることが明らかになった。

「看護実践論」受講後の不安の程度



3) DVD教材の活用について

動画教材は、看護教育で用いることの多いペーパー・ペイシエントと比較して、学内で教師と学生が同時に臨場感を共有することができた。したがって、実習に臨む以前の準備として、臨地実習指導者と同様の状況を作り出すことが可能である。また市販の視聴覚教材と比べ、自作されたものは教員が伝えたいことが焦点化されている。しかしながら、DVD教材を視聴するのみでは患者との関わりの疑似体験ができるわけではない。教員は学生が気付いていないが是非とも気付いてほしいことに関して、適宜、発問をしづきを促しながら教材化を図る必要がある。事例動画教材の活用には、対象のレディネスに合わせて、視聴方法や回数、教示や発問のタイミングを工夫することが示唆された課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計8件)

<口演発表>

- ① 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邊智子, 榎直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2013. 3. 9~3. 10). 経験型実習教育研修プログラムの効果：研修参加者の有無による精神科看護師の教師効力の比較. 第14回日本教師学学会. 秋田.
- ② 浅井初, 江上史子, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2013. 3. 9~3. 10). 「経験型実習教育」におけるプロジェクト学習の有効性の検討～実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から～. 第14回日本教師学学会. 秋田.
- ③ 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂. (2013. 3. 9~3. 10). 経験型実習教育における学生の学びの内容～3年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから～. 第14回日本教師学学会. 秋田.
- ④ 坂田志保路, 浅井初, 江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 清水夏子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 小野美穂. (2013. 3. 9~3. 10). 経験型実習教育の有効性の検討～4年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから～. 第14回日本教師学学会. 秋田.

- ⑤ 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邊智子, 榎直美, 小森直美, 吉田恭子, 江上史子, 清水夏子, 小野美穂. (2012. 12. 1). 経験型実習教育のプロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京.

<示説発表>

- ⑥ 榎直美, 吉田恭子, 安酸史子, 中野榮子, 渡邊智子, 松枝美智子, 江上史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2012. 12. 1). 「経験型実習教育」におけるプロジェクト学習の有効性の検討～ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減～. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京.
- ⑦ 小森直美, 安酸史子, 安永薫梨, 江上史子, 中野榮子, 松枝美智子, 渡邊智子, 榎直美, 小野美穂, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子. (2012. 12. 1). 「経験型実習教育」におけるプロジェクト学習の有効性の検討～卒業生を対象としたグループ・フォーカス・インタビューから～. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京.

<交流集会>

- ⑧ 安酸史子, 渡邊智子, 笹隈友美, 福本優子, 元山敦子, 瓜生知佳子, 中野榮子, 松枝美智子, 榎直美, 浅井初, 坂田志保路, 江上史子, 吉田恭子, 小森直美, 小野美穂. (2012. 12. 1). 「経験型実習教育」におけるプロジェクト学習の有効性の検討～教員・指導者・看護学生が力をあわせるには～. 第32回日本看護科学学会学術集会. 東京.

[その他]

ホームページ等

経験型実習教育ホームページ：

<http://www.経験型実習.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安酸 史子 (YASUKATA FUMIKO)

福岡県立大学・看護学部・教授

研究者番号：10254559

(2) 研究分担者

中野 榮子 (NAKANO EIKO)

福岡県立大学・看護学部・教授

研究者番号：50207841

永嶋 由理子 (NAGASHIMA YURIKO)
福岡県立大学・看護学部・教授
研究者番号：10259674

松枝 美智子 (MATSUEDA MICHIKO)
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：50279238

渡邊 智子 (WATANABE TOMOKO)
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：00268955

櫛 直美 (ICHIKI NAOMI)
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：80331883

安永 薫梨 (YASUNAGA KAORI)
福岡県立大学・看護学部・講師
研究者番号：80382430

清水 夏子 (SHIMIZU NATUKO)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号：80468305

浅井 初 (ASAI HAJIME)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号：80612952

坂田 志保路 (SAKATA SHIHOJI)
福岡県立大学・看護学部・助手
研究者番号：10438418

吉田 恭子 (YOSHIDA KYOKO)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号：00553413

江上 史子 (EGAMI FUMIKO)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号：80336841

小森 直美 (KOMORI NAOMI)
純真学園大学・保健医療学部・准教授
研究者番号：70438307

小野 美穂 (ONO MIHO)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師
研究者番号：20403470